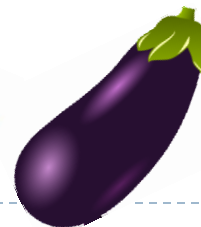




富山市中心市街地における 農産物直売活動の展開

富山大学人文学部
人文地理学研究室4年
福田 倫子

目次



I はじめに

1. 研究の背景と研究目的
2. 研究方法
3. 研究対象地

II 直売活動の変遷と実態

1. 地域の変容と直売活動の展開
2. 活動に関わる生産者

III 生産者からみる直売活動

IV おわりに



I はじめに

1. 研究の背景と研究目的

- ▶ 農産物直売活動(以下、直売活動)は
今日まで様々な形態で行われてきている

定期市



農産物直売所(以下、直売所)

- ▶ 直売活動に焦点を置いた研究
 - ・神戸(1970)・・・直売活動では、生産者にとって
所得の向上機能がみられることを明らかにした
 - ・原・川手(1992)・・・定期市における直売活動には、
商品や売り方、人的交流に魅力があることを指摘
 - ・宮崎(2000)・・・直売活動には都市住民・消費者の
食文化向上の機能があり、地域社会に貢献している

I はじめに

1. 研究の背景と研究目的

▶ 富山市における直売活動の特徴・・・

☆中心市街地周辺に多く分布している(第I図)

- ・新宅(2013)・・・生産者が地場もん屋総本店の立地に魅力を感じて出荷し、更なる農産物の生産増加につながる機能があることを指摘



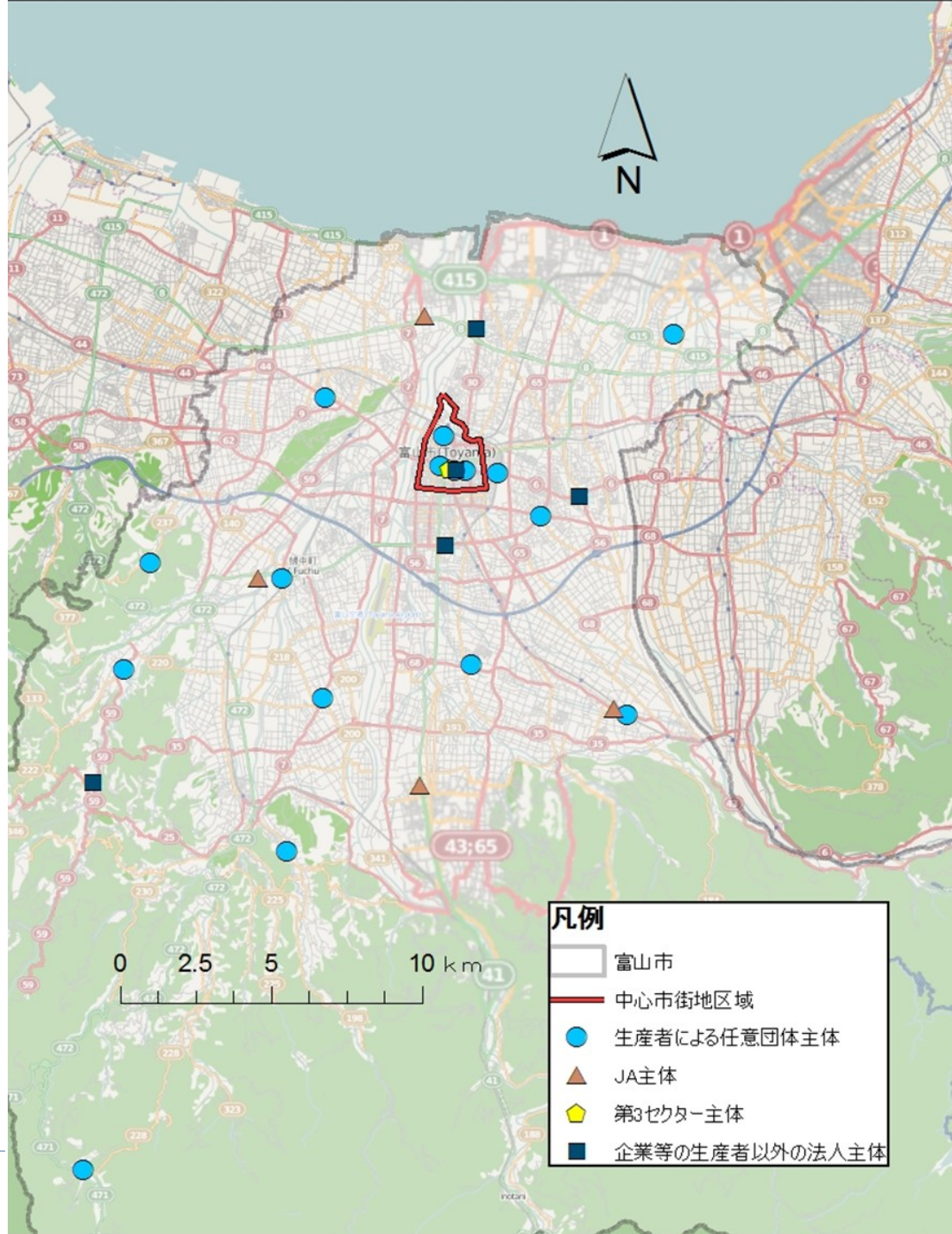
新宅(2013)の研究をさらに掘り下げ、生産者の視点から中心市街地全体の活動について検討する必要性がある

☆伝統的な定期市と常設の直売所が混在している



活動の存続要因について検討する必要性がある

富山市の直売活動の分布（第1図）



I はじめに

1. 研究の背景と研究目的

- ▶ 富山市の中心市街地を事例として、生産者からみる直売活動の機能と存続要因についてそれぞれの活動を比較検討することで、中心市街地での直売活動の展開を明らかにすることを本研究の目的とする。



I はじめに

2. 研究方法

- ▶ 富山市役所への聞き取り
- ▶ 直売活動の取り組みを行う生産者への聞き取り
- ▶ 文献資料による調査

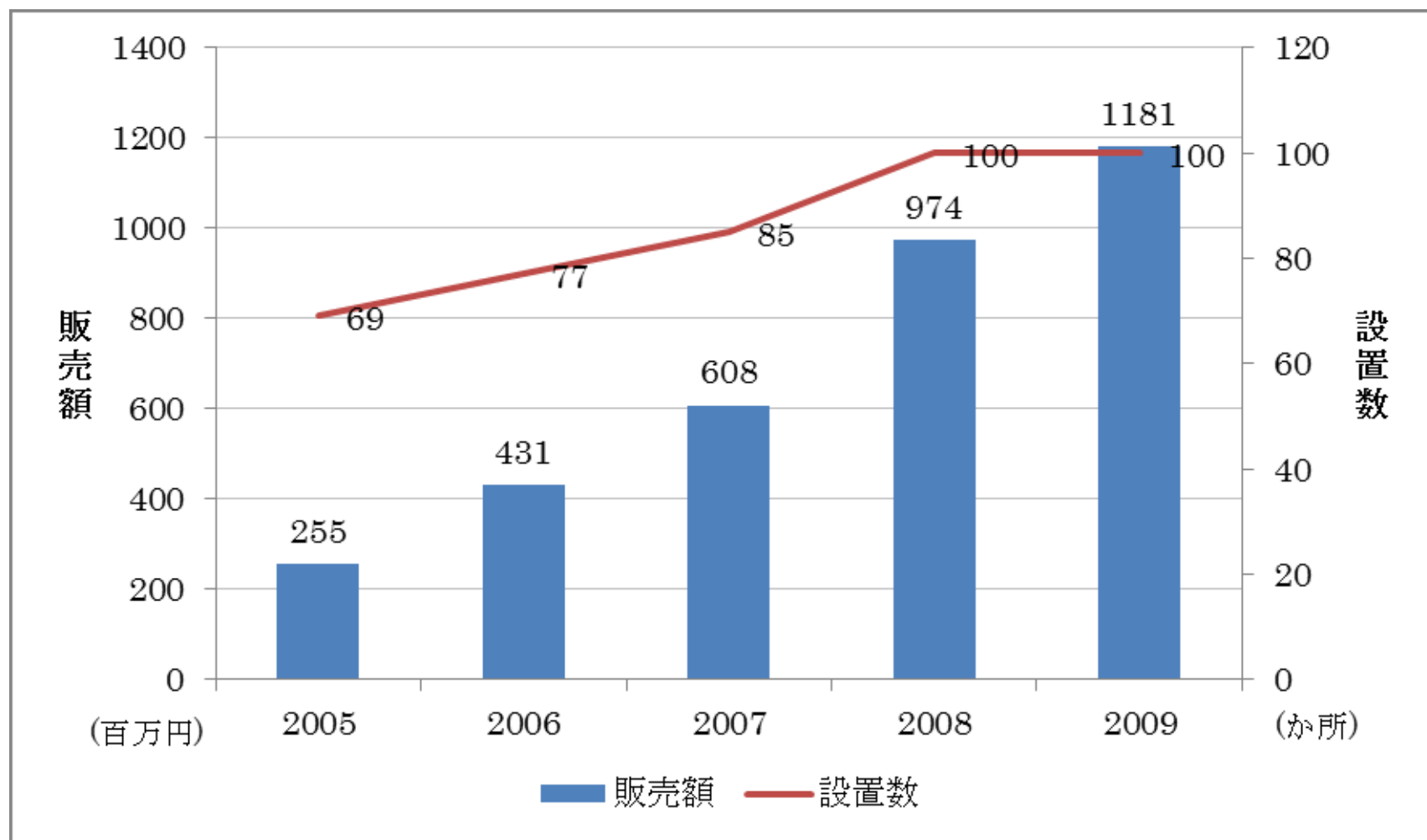


- ▶ 直売活動の歴史的経緯についての整理
- ▶ 活動実態と生産者を取り巻く状況の把握



- ▶ 生産者からみた直売活動の機能と存続要因について検討する

富山県内直売所設置数と販売額の推移(第2図)



中心市街地における直売活動の一覧(第1表)

直売活動の名称	地区	場所	設立年度	開催期間
大手町通り朝市	大手町	市民プラザ前	1913	7月～11月 奇数日5:00～8:00
中教院とりたて野菜市	堤町通り	富山市中教院モール	1999	6月～12月 木曜 8:30～9:30
みずの里市cic夕市	新富町	cic地下1階	2004	6月～12月 火金16:00～18:00
街なかサロン樹の子	中央通り	街なかサロン樹の子1階	2004	通年 10:00～15:00
野菜アウトレット富山	中央通り	てるてる亭内	2010	月火木金 9:30～13:30
地場もん屋総本店	総曲輪通り	総曲輪ウィズビル1階	2010	通年 9:30～18:30

Ⅱ 直売活動の変遷と実態

1. 地域の変容と直売活動の展開

▶ 大手町通りの変容

大手町通りは、城下町におけるメインストリートであった町の中心部で1913年ごろから「**大手町通り朝市**」が開催



戦後の道路整備や区画整理によって、
大手町通りが裏通りとなってしまう



大手モールとして整備される

Ⅱ 直売活動の変遷と実態

1. 地域の変容と直売活動の展開

▶ 市街地の衰退への対策

中心商店街としての賑わいや活気が失われつつあった



1999年、まちなか推進をはかり
「中教院とりたて野菜市」が開催

2002年、富山ステーションフロントcicによる
取組みの一つとして「みずの里市cic夕市」が開催

2004年、まちなかのコミュニティ機能や
利便機能の回復を目的として「街なかサロン樹の子」設立

Ⅱ 直売活動の変遷と実態

1. 地域の変容と直売活動の展開

▶ 合併による新たな施策

2005年、7市町村の合併により新たな富山市が誕生



合併前の地域との一体感の醸成を図る
地産地消の取り組みを一体的に進める方針

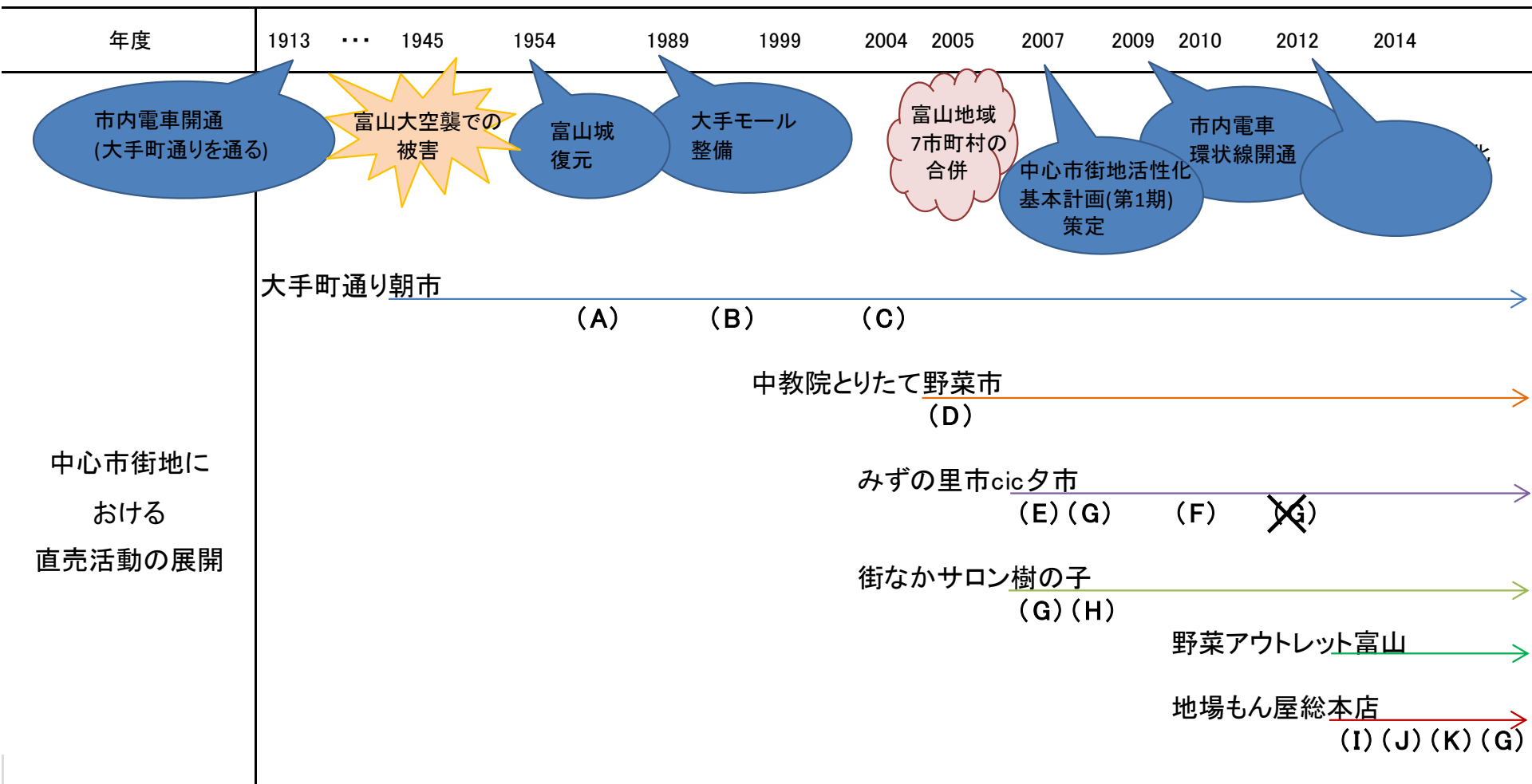


2010年、「**地場もん屋総本店**」設立

2010年、地産地消と中心市街地の活性化を目的として
「**野菜アウトレット富山**」が開催

Ⅱ 直売活動の変遷と実態

1. 地域の変容と直売活動の展開



Ⅱ 直売活動の変遷と実態

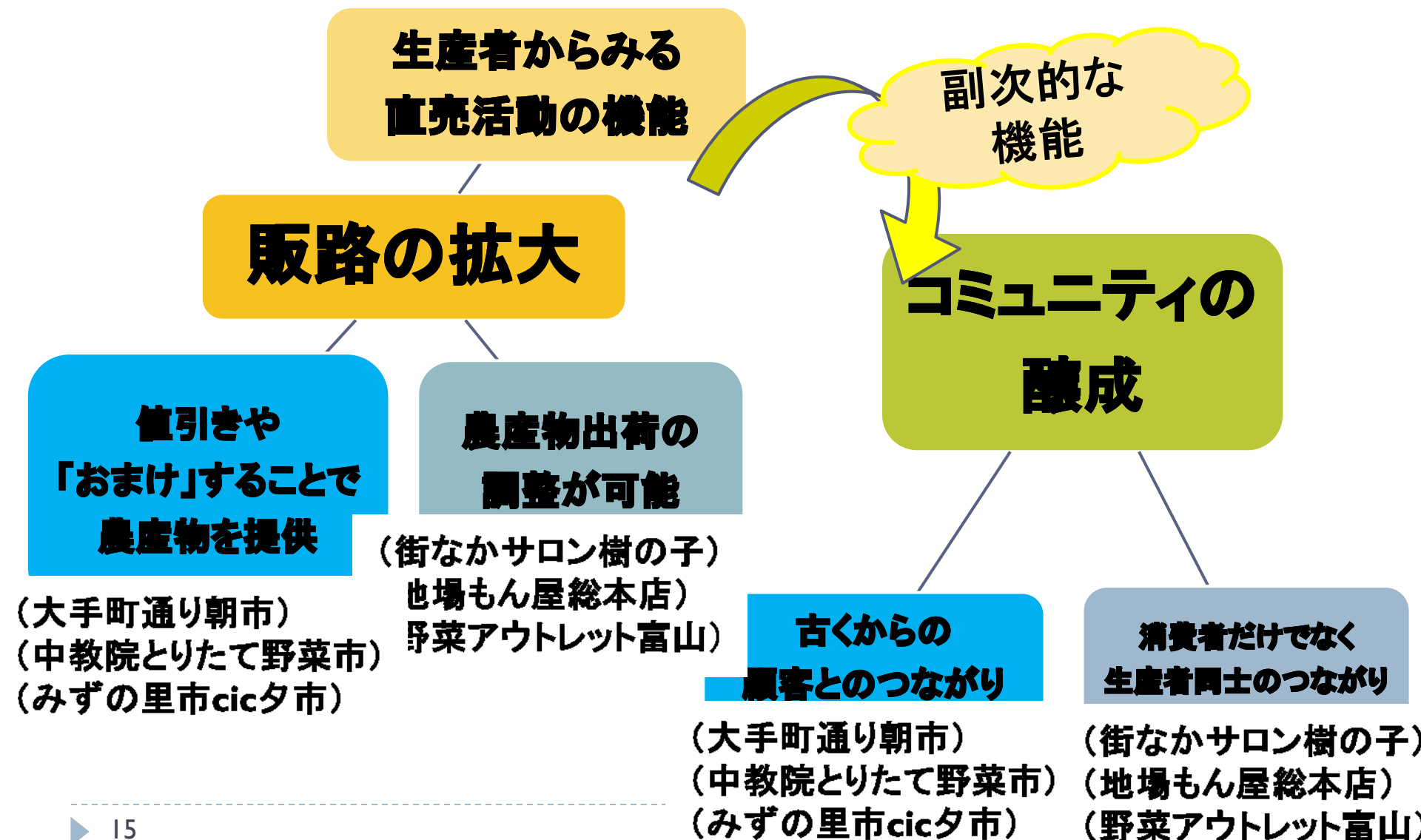
２．活動に関わる生産者

名前	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
年齢	59	66	82	58	65	51	78	77	65	70	81
性別	女性	女性	男性	女性	女性	男性	女性	女性	男性	女性	男性
居住地区	老田	老田	老田	池多	水橋	水橋	水橋柳寺	流杉	浜黒崎	藤の木	草島
移動手段	自家用車	自家用車	自家用車	自家用車	自家用車	自家用車	自家用車	自家用車	自家用車	自家用車	自家用車
主な活動場所	大手町通り 朝市	大手町通り 朝市	大手町通り 朝市	中教院とりたて 野菜市	みずの里市 cic夕市	みずの里市 cic夕市	街なかサロン 樹の子	街なかサロン 樹の子	地場もん屋 総本店	地場もん屋 総本店	地場もん屋 総本店
他の場所での 販売の有無	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
農業経営 水稻	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○
野菜	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
加工品	×	×	×	×	○	×	○	○	×	○	×
花き栽培	×	×	×	×	×	○	○	×	○	×	×
農業形態	専業	専業	兼業	専業	専業	専業	専業	専業	専業	兼業	専業
維持形態	B	A	A	A	A	A	B	A	A	A	A
就農年数	20年	45年	10年	35年	40年	12年	30年	58年	40年	30年	50年
活動時の人数	1人	1人	2人(妻)	1人	1人	1人	2人(パート)	1人 (水稻は息子)	1人	4人 (夫・娘・息子)	2人(妻)
子供の有無	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
後継者の有無	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×

注 A…自家で維持 B…部分委託



Ⅲ 生産者からみる直売活動（機能）



Ⅲ 生産者からみる直売活動（存続要因）

生産者からみる
直売活動の存続要因

慣習的に残されている定期市
顧客の存在が大きい

（大手町通り朝市）
（中教院とりたて野菜市）
（みずの里市cicタ市）

出荷しやすい環境
身体の負担が軽減される販売形態

↓
農業に対する意欲が向上

（街なかサロン樹の子）
（地場もん屋総本店）
（野菜アウトレット富山）

農業従事者の
高齢化

IV おわりに

- ▶ 富山市の中心市街地では、
地域の変容や農業従事者の高齢化に適応しながら
生産者にとってより販売しやすい形態へと発展
地域の変容・・・中心市街地の発展
高齢化・・・早朝からの活動による体の負担への懸念や
夜間時の自家用車の運転の恐怖
- ▶ 自らのライフスタイルに応じて
消費者と近い距離で農産物を販売できる直売活動は
生産者にとって重要な空間である

ご清聴
ありがとう
ございました！

